

## 製品安全データシート

整理番号 SG-006-100

初版:平成21年 9月 1日

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	FUJI SILICA GEL
製品名	フジシリカゲル混 F
会社名	富士シリシア化学株式会社
住所	愛知県春日井市高蔵寺町2丁目1846番地
電話番号	0568-51-2511
担当部門	品質保証グループ
担当者	中村昌弘
緊急時の電話番号	0568-51-2511
FAX番号	0568-51-8557
メールアドレス	nakamura@fuji-silysia.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	防湿、除湿

使用上の制限

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
人健康有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:気体)	分類対象外

	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
	急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
ラベル要素		
絵表示またはシンボル	なし	
注意喚起語	警告	
危険有害性情報	眼への刺激	
注意書き	<p>【予防策】</p> <p>必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避ける事。  粉じんを吸入しない事。  取り扱い後はよく手を洗う事。</p> <p>【対応】</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡する事。</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う事。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す事。その後も洗浄を続ける事。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受ける事。</p> <p>【保管】</p> <p>【廃棄】</p> <p>内容物、容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する事。</p>	
国・地域情報		

## 3. 組成及び成分情報

## 化学物質

化学名又は一般名	非晶質二酸化ケイ素	塩化カルシウム	ジクロロリンテトラフェニル ポルフィリン塩化物
別名	シリカゲル 無水ケイ酸		
化学式	SiO <sub>2</sub>	CaCl <sub>2</sub>	C <sub>44</sub> H <sub>28</sub> Cl <sub>3</sub> N <sub>4</sub> P
CAS登録番号	7631-86-9	10043-52-4	84896-72-0
官報公示整理番号	(1)-548	(1)-176	(登録済)
分類に寄与する不純 物及び安定化添加	情報なし		
濃度又は濃度範囲	99.9%	0.007%	0.0002%

## 4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で 休息させる事。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける事。
皮膚に付着した 場合	皮膚を速やかに洗浄する事。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける事。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗う事。次に、コンタクトレンズを着用していて 容易に外せる場合は外す事。その後も洗浄を続ける事。 目の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受ける事。
飲み込んだ場合	清浄な水でよく口の中を洗浄する事。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける事。
予想される急性症状及び 遅発性症状	吸入した場合:咳
最も重要な兆候及び症状	

## 5. 火災時の措置

消火剤	この製品自体は、燃焼しない。 周囲の火災状況に応じて適切な消火剤を用いる。
特有の危険有害性	熱、火炎により塩素ガスを生成する事がある。
特有の消火方法	
消火を行う者の保護	消火作業の際は、周辺火災に応じて適切な空気呼吸器、 化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置</p>	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。</p>
<p>回収、中和 封じ込め及び浄化の方法・ 機材</p>	<p>漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 危険でなければ漏れを止める。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い</p>	
<p>技術的対策</p>	<p>「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。</p>
<p>局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項</p>	<p>「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。 静電気放電に対する予防措置を講ずる事。 接触、吸入又は飲み込まない事。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行う事。 取扱い後はよく手を洗う事。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない事。 「10. 安定性及び反応性」を参照。</p>
<p>接触回避</p>	
<p>保管</p>	
<p>技術的対策</p>	<p>保管場所にはこの物質を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、 照明及び換気の設備を設ける事。</p>
<p>混触危険物質 保管条件 容器包装材料</p>	<p>「10. 安定性及び反応性」を参照。 涼しくて換気の良い場所に直接日光や雨水を避けて貯蔵する。 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。</p>

8. ばく露防止及び保護措置

<p>管理濃度</p>	<p>非晶質二酸化ケイ素</p>	<p>管理濃度 設定されていない。</p>
<p>許容濃度(ばく露限界値、 生物学的ばく露指標)</p>	<p>日本産衛学会  ACGIH</p>	<p>総粉じん 8 mg/m<sup>3</sup> 吸入性粉じん 2 mg/m<sup>3</sup> TLV-TWA 10 mg/m<sup>3</sup></p>
	<p>塩化カルシウム</p>	<p>管理濃度 設定されていない。 総粉じん 設定されていない。</p>

	ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物	吸入性粉じん 設定されていない。 管理濃度 設定されていない。 総粉じん 設定されていない。 吸入性粉じん 設定されていない。
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置したほうが良い。 工程で粉じんが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。	
保護具	適切な呼吸器保護具を着用する事。 必要に応じて適切な保護手袋を使用する事。 必要に応じて個人用の眼の保護具を使用する事。 必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用する事。	
衛生対策	取扱い後はよく手を洗う事。	

9. 物理的及び化学的性質

	非晶質二酸化ケイ素	塩化カルシウム	ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物
物理的状態、形状、色など	球状又は破砕状	白色、吸湿性の大きい固体	赤紫色の粉末
臭い	無臭	無臭	特有の臭気
pH	4 ~ 8 (スラリー)	8 ~ 11	中性
引火点	不燃性	不燃性	データなし
爆発範囲	データなし	データなし	データなし
蒸気密度(空気 = 1)	データなし	データなし	データなし
真比重	2. 2	2. 15	データなし
水溶解性	水に不溶	56. 2 % (40°C)	水に不溶
オクタノール/水分配係数	データなし	データなし	データなし
自然発火温度	不燃性	不燃性	データなし
分解温度	データなし	データなし	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし	データなし	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)	データなし	データなし	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし	データなし	データなし
粘度	データなし	データなし	データなし

## 10. 安定性及び反応性

	非晶質二酸化ケイ素	塩化カルシウム	ジクロロリンテトラフェニル ポリフィリン塩化物
安定性	通常の取り扱い条件 (常温)では安定	強アルカリと反応し て、Ca(OH)を生じる	直射日光下で分解の恐れ
危険有害反応可能性 避けるべき条件	該当なし	該当なし	データなし
混触危険物質	水分、有機ガス	ステンレス、鉄	データなし
危険有害な分解生成物	フッ化水素	ステンレス、鉄	データなし
	該当なし	該当なし	データなし

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口：二酸化ケイ素、塩化カルシウム、ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物のそれぞれのLD <sub>50</sub> 値から計算し 5000mg/kg となったので区分外とした。 経皮：二酸化ケイ素、塩化カルシウム、ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物のそれぞれのLD50値から計算し 5000mg/kg となったので区分外とした。 吸入(気体)：GHS定義における固体なので分類対象外とした。 吸入(蒸気)：データが無い為、分類できないとした。 吸入(粉じん、ミスト)：データなしなので分類できないとした。		
皮膚腐食性・刺激性	二酸化ケイ素は刺激性なしの判定、塩化カルシウムは区分3の判定、ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物はデータがないが、その混合割合より区分外とした。		
眼に対する重篤な損傷・刺激性	二酸化ケイ素は区分2B、塩化カルシウムは区分2A、ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物はデータがないが、その混合割合から区分2Bとした。		
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データが無い為、分類できないとした。		
生殖細胞変異原性	二酸化ケイ素は区分外であり、塩化カルシウム、ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物のデータはないが、その混合割合から区分外とした。		
発がん性	非晶質二酸化ケイ素はIARCによってカテゴリー3に分類され、塩化カルシウム、ジクロロリンテトラフェニルポリフィリン塩化物のデータはないが、その混合割合から区分外とした。		
生殖毒性	データなしなので分類できないとした。		
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	データなしなので分類できないとした。		
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	データなしなので分類できないとした。		

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	データなしなので分類できないとした。
水生環境慢性有害性	データなしなので分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う事。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共  
団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知  
の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に  
従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

## 14. 輸送上の注意

輸送に関する国際規制

陸上規制情報

データなし

海上規制情報

データなし

航空規制情報

データなし

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように  
積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物

(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

政令番号 第312号:シリカ

## 16. その他の情報

参考文献

IUCLID(2000)

IARC(1997)

産衛学会勧告(2005)

ACGIH-TLV(2005)

災害事例

情報なし

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関し  
ては、いかなる保証をなすものではありません。

また記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に  
適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

記載内容の問い合わせ先: 品質保証グループ 清原、山内

電話 0568-51-2511

FAX 0568-51-8557